

★銚子出船のメヌケは「ミン」と呼ばれる片貝沖のほか、今後は状況で北の海域も狙うようになる



浅場で良型の期待大!! 銚子のメヌケ乗っ込みの好期

銚子外川港出船

写真●本誌編集部



★水深600メートル前後を狙った取材日に上がったアブラボウズは50キロ級



▲ミヤマエ・キンメスベシヤルのような大型電動があると安心

◀エサは持参。スルメイカやサケ皮、アナゴなどが使われる



◀オモリは500号でハリ数は10本以内。底ダチが分かりづらければ中オモリは外そう

▲福田丸ではトモまたは状況でミヨシから順番に投入していく

この時期、注目を集める深海ターゲットがアコウダイ。銚子ではメヌケと呼ばれ、4〜5キロ前後の良型がスラスラとハリ掛かりする様は圧巻だ。
もちろん水深400〜650メートル前後



★浅場を狙った取材翌日は潮も緩く、中盤からアタリが始め最高6点掛け。深海釣り初心者の人もほぼ全員が型を見られたそうだ。
（※写真提供：福田丸）

の深海を狙う釣りだけに釣れ具合は潮の流れや天候に左右され、好釣果に歓喜することもあれば、型見ずに終わってガックリ肩を落とすこともある。だからこそ、釣り人は希望の1尾を求めて足繁く通うのである。
そんな銚子のメヌケが今、まさに乗っ込みの好期を迎えている。取材日は水深600メートル前後の深場を狙ったため船中アブラボウズ1尾に終わったが、水深400メートル前後と浅場を狙った翌日は最高6点掛けを含めてほぼ全員が型を見る好日。今シーズンには比較的潮の流れが緩やかな日が多いので、今月一杯は大チャンスだ。
（詳細は52ページ参照）



●銚子外川港・福田丸 福田 稔船長